

1.マイワシ漁獲状況概要

(1)道東海域

今年のさけます代替棒受網漁業による水揚げは、花咲、厚岸にて 5 月 22 日から始まり、昨年(5 月 18 日、釧路)よりも遅かった。5 月 31 日の表面水温分布図によると、道東海域では 10℃以下の北限が昨年は落石岬南 150 海里であったのに比べて、今年は落石岬 30 海里付近に位置しており、昨年よりも漁場が近かった。5 月の花咲から広尾における主要港(4 か所)のマイワシの水揚げ量は 239 トンで前年(159 トン)の 1.5 倍であった(表 1)。

表 1 道東海域におけるマイワシの水揚げ量

水揚げ港	2017年5月(トン)	2018年5月(トン)	前年比
花咲	97	164	1.7
厚岸	61	49	0.8
釧路	1	21	21.0
広尾	0	5	
合計	159	239	1.5

(出典：おさかなひろば)

(2)三陸常磐沖

宮古から石巻における主要港(6 か所)のマイワシの 5 月の水揚げ量は 13,040 トンで前年(2,656 トン)の 4.9 倍であった(表 2)。小名浜から銚子におけるマイワシの水揚げ量は 20,334 トンで前年(26,019 トン)の 0.8 倍であった(表 3)。このように石巻以北では昨年よりも水揚げ量が少なく、以南では昨年よりも多い結果となった。

昨年の 5 月中旬の銚子沖の表面水温は 15～17℃であったのに比べて、今年の 5 月中旬は 17～20℃であり、昨年よりも銚子沖の水温は 2～3℃高かった。また、昨年

は 5 月下旬から金華山沖がマイワシのまき網漁場になっていたのに比べ、今年は 5 月中旬にはすでに小名浜沖が漁場になっており、昨年に比べて漁場の北上が早かった。

漁場の北上が早かったため今年 5 月の道東沖、石巻以北における水揚げは前年よりも多く、常磐沖における水揚げは少なかったと考えられる。

表 2 三陸沖におけるマイワシの水揚げ量

水揚げ港	2017年5月(トン)	2018年5月(トン)	前年比
宮古	1	3	3.0
釜石	4	16	4.0
大船渡	60	1,616	26.9
気仙沼	385	2,081	5.4
女川	688	2104	3.1
石巻	1,518	7,220	4.8
合計	2,656	13,040	4.9

表 3 常磐沖におけるマイワシの水揚げ量

水揚げ港	2017年5月(トン)	2018年5月(トン)	前年比
小名浜	461	285	0.6
大津(茨城)	368	202	0.5
波崎	1,632	2,616	1.6
銚子	23,558	17,231	0.7
合計	26,019	20,334	0.8

(3)マイワシの体長組成

5 月下旬の銚子沖におけるマイワシの体長組成は 14～16.5cm(1 歳)が主体であった。前年の 5 月下旬は 17～20cm(2 歳以上)が主体であったのに比べると今年は小型のものが多く水揚げされた(図 1)。マイワシは産卵を終えた 17～20cm 以上(2 歳以上)のものから北上をはじめると特徴がある。(2)でも述べたように今年の銚子沖の水温上昇が早く、大型のものは北上をはじめたため、銚子沖の水揚げ物は小型のものが多かったのではないかと考えられる。

金華山沖で操業されたまき網の水揚げ物の体長組成の主体は 18～22cm(2 歳以上)であった(図 2)。5 月下旬には女川沿岸には表面水温 9～10℃台が広がり、マイワシまき網漁場になっていたため、産卵を終えた大型のものからこの水温帯を通り、北上をはじめたと考えられる。

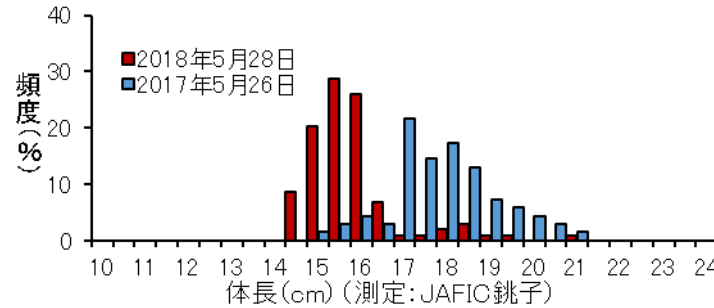


図 1 2018 年 5 月下旬における銚子沖のマイワシ体長組成の前年比較

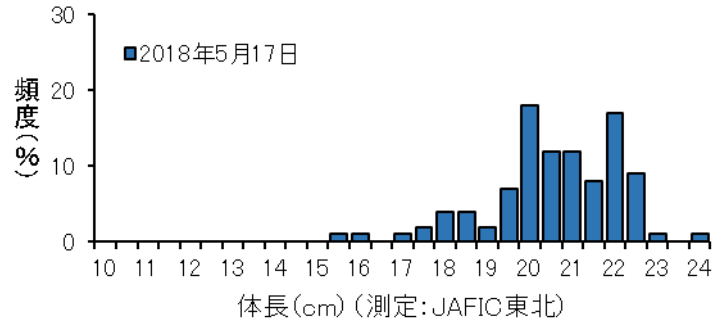


図 2 2018 年 5 月 17 日における金華山沖まき網の体長組成

2.今後の予測

5 月下旬には花咲～厚岸沖 13～26 海里(表面水温 7℃台)がマイワシのさけ・ます代替棒受網漁業の漁場になっており、今後さらに水温が上がると、北上した 17～20cm(2 歳以上)等の大型のものが水揚げされると考えられる。また、銚子沖では大

型の個体が三陸沖、道東沖まで北上するため、夏にかけて14～17cm(1 歳)等の小型のものが水揚げの主体になると考えられる。

(漁海況部)